

土 星 の 環 と ハ イ ゲ ン ス

杉 江 重 誠

土星に、まことに不思議な美しい平らなリング(環)のあることは、天文學者やアマチュア・アストロノマでなくても、天文に少しでも興味を持つてゐるほどの人ならば皆知つてゐる。このリングの存在を初めて發見したのはハイゲンスといふ西洋の天文學者であつたが、彼は實に古今に優れた卓抜な詩人であつたと自分は考へる。といふその譯は次に書く通り：

今からおよそ 280年前、西曆1656年のことであつた。ハイゲンスは専門の研究を土星に向けて、色々と觀測したり、また昔からの土星研究の結果をも綜合して考察したところ、この土星に一種不思議なリングのあるらしいことを見つけた。しかし當時の觀測設備は現在のやうに完全であらう筈もないから、彼ハイゲンスはこれについて決定的に確かなことが言へず、疑問を残したまゝで、ともかくも、¹「土星にはリングがある」といふ説を立て、その要旨を必要な文字の種類と數だけで次のやうに發表したものである。

aaaaaaa, ccccc, d, eeeee, g, h, iiii, lll, mm, nnnnnnnnn, oooo, pp, q, rr, s, tttt, uuuuu.

その後もハイゲンスは此の土星のリングについて せつせと研究を重ねた結果、三年の後に至り、遂に自説に誤りなきことを確かめたので、前に發表して置いた文字を組合せ、こゝに始めてまとまつた一つの短い報文として世に發表した。それは次の通りであつた。

Annulo cingitur, tenui, plano, nasquam cohaerente, ad eclipticum inclinato.
その意味は

「土星は本體とは全く離れた一つの薄い平らな、黄道に對して或る傾きを持つてゐる環によつて圍まれてゐる。」¹

といふのであつた。(讀者よ、此の解き方がわかりますか?)

設備の不完全な當時において多大の困難と戦ひながら、なほ且つこの偉大なるユーモアを世に投げた彼ハイゲンスの餘裕シャクシャクたる態度に我等は實に雄大秀拔なる詩境を發見することが出來やう。嚴重精細なる記述を必要とする科學の取扱に、直接詩や歌を以てすることの不可能なるは自分も知つてゐるが、猶豊かに溢る如き詩心を以てすれば、科學はメスの如き冷徹を脱して、より人間的な温か味を持つて我等のものとなるであらう。